

# グリーンスクール表彰

## 1 表彰の目的

環境教育の一層の推進を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において、特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰することにより、環境への意識の高揚を図ることを目的としている。

## 2 表彰の部門

学校、地域環境を活用し、総合的に体験活動や学習に取り組み、環境教育に成果をあげている学校であること。

### 【環境保全部門】

森林減少、絶滅危惧動植物の増加など地球環境の持続性に関する危機感が国際的に高まっている中、地域の希少生物やその生息地域等の保護活動に学校をあげて長期的に取り組むなど、自然保護活動に成果をあげている学校

### 【資源循環部門】

再生利用及び再利用による廃棄物の削減はSDGsでも示され、国際的に取り組まれている中、身近な生活の中でも、リサイクルやごみ問題など環境問題についての学習に積極的に取り組み、児童生徒の環境に対する意識の高揚に成果をあげている学校



グリーンスクールフラッグ

## □ 受賞校一覧

### (1) 令和2年度グリーンスクール表彰校 14校

#### 【環境保全部門】

[小学校 7校]	姫路市立白鷺小中学校 丹波市立大路小学校 南あわじ市立湊小学校 淡路市立塩田小学校	たつの市立西栗栖小学校 洲本市立由良小学校 南あわじ市立阿万小学校
[中学校 3校]	神戸市立大沢中学校 姫路市立家島中学校	西宮市立山口中学校
[高等学校 3校]	兵庫県立有馬高等学校 兵庫県立洲本実業高等学校	兵庫県立村岡高等学校

#### 【資源循環部門】

[小学校 1校]	新温泉町立温泉小学校
----------	------------

### (2) 令和2年度グリーンスクール奨励賞表彰校 3校

[小学校 2校]	西脇市立日野小学校	佐用町立上月小学校
[特別支援学校 1校]	兵庫県立あわじ特別支援学校	

## □ 令和2年度グリーンスクール表彰校の取組（14校）

### 【環境保全部門】

#### (1) 姫路市立白鷺（はくろ）小中学校

##### 『世界文化遺産 姫路城中曲輪（なかくるわ）バタフライガーデン創造事業』

小学部3年の環境学習を中心に『姫路城中曲輪バタフライガーデン』と銘打ち、姫路城の周辺エリアにおいて蝶の生育環境の保全活動を行っている。地域・県立学校・企業とも協働しながらジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサの育成を行っている。今年度新たに県立・私立学校、各団体、行政機関、地元の自治会等と協働することで中曲輪内にさらに食草スポットを設置することができるようになり、更なる成果が見込まれる等、地域全体で持続可能な環境保全（SDGs）について考えようとする意識が高まっている。



#### (2) たつの市立西栗栖（にしくりす）小学校

##### 『Here is KURISU！ 西栗栖未来プロジェクト』

栗栖の里の自然や歴史を「探る」「発見する」「働きかける」ことに取り組んでいる。低・中・高学年それぞれで、里山の生き物調べや栗栖川の水生物調査・野菜の栽培などを行っている。野菜の栽培では、地域の方に農業を使わず、地域の気候を生かした栽培について教わり、収穫した野菜は、地域の福祉施設や活動でお世話になった方々にお配りした。また、西栗栖地区に生息する動植物を調べる中で豊かな自然の中で多くの生き物が関わり合いながら生きていることに気づき、ジャコウアゲハの保護活動にも取り組んでいる。他にも、水不足の悩みを解決しようと先人が団結して作った栗栖池の建設物語を劇化したり、校区の様子を歌にして発表したりする等、地域へ発信する活動も行い、保護者や地域住民においても環境への意識が高まっている。



#### (3) 丹波市立大路（おおじ）小学校

##### 『大路の自然探検隊！』

3年生の総合的な学習の時間では「育てよう 大路の生き物」を、年間計画に取り入れ、主にオオムラサキ、ホトケドジョウ、ゲンジボタルの生態について体験的な学習を進めている。令和元年度は、兵庫県教育委員会丹波教育事務所の指定を受けて、この学習活動を「丹波地域まちの自慢発信事業」として実践発表とリーフレットの作成につなげた。年間10回（20時間）の活動の中で、①「貴重な生き物について知る」②「自然環境について調べる」③「自然環境を守る」の3つを柱として取り組むことで、校区の自然を大切にしたいという心と態度が育まれている。



#### (4) 洲本市立由良（ゆら）小学校

##### 『「出あい ふれあい 学びあい」 ふるさと由良の豊かな自然を守ろう』

本校の環境体験学習フィールド「成ヶ島」は、砂州あり干潟あり湿地ありの希少種の動植物の宝庫である。自然豊かな「宝の島」を守るにはどうしたらよいか、そんな子どもたちの課題意識を出発点にし、環境学習を進めている。子どもたちは、成ヶ島で五感を働かせて動植物に触れ、自然の素晴らしさや生命の大切さを体全体で感じている。漂着ゴミの清掃は、自らの手で地域の自然を守る活動そのものである。そして、専門知識を有する人たちや環境保全に携わっている人との共同活動は、ふるさとに誇りを持つ大きなきっかけとなるとともに、由良の自然を守ろうとする意識を高めるなど、子どもたちの豊かな心を育むことにつながっている。



#### (5) 南あわじ市立湊（みなと）小学校

##### 『自然を大切にし、ふるさとを愛し、ともに学ぶ湊っ子』

苗床づくりから、種まき、育苗、土づくり、植え付け、除草、収穫に至るまで、地域の方の協力や指導を受けながら玉ねぎ栽培に取り組んでいる。収穫した玉ねぎを選別し、近隣の土産物店で販売したり、保護者に配布したりしている。淡路の玉ねぎ栽培の歴史について学んだり、玉ねぎを実際に調理しながら様々な料理方法について学んだりする活動は、地産地消の面からも、「食」について考える良い機会となった。また、里山探検で学んだ内容について、学習発表会の機会を利用して地域住民へ発表したり、ホームページに掲載することを通じて、環境問題に対する意識の向上につながっている。



#### (6) 南あわじ市立阿万（あま）小学校

##### 『見て ふれて 感じるいのちのつながり ～未来へ』

学校全体で発達段階に応じたテーマを設定し、環境教育の視点を取り入れた教育活動を展開しており、保護者や地域と連携した資源回収や清掃など、学校教育以外の場面でもSDGsの活動に参加してきた。阿万主要三河川が合流した河口での汽水生物観察や、灘地区の川での淡水生物観察は、自然に対する畏敬の念をもって循環型社会を生き抜いた先人達の営みにふれる良い機会となった。また、これらの学習成果をまとめ、学校内外へ発信することで、地域の自然への愛着とそれを守らねばならないという責任感が育まれている。



## (7) 淡路市立塩田（しおた）小学校

### 『塩田で生まれ、塩田に学び、塩田で育つ地域学習』

「ふるさと塩田」を愛する心を育むため、6年間の見通しをもって地域学習・環境体験学習に取り組んでいる。長年、地域の方を指導者として招き行われている、漁業地域、農業地域、住宅地域の3つのエリアの地域学習等を通じて、地域の人々に見守られているという実感や自尊感情等が育まれてきた。また、「アナゴの蓄養体験」や「EM菌団子づくり」、「保護者とのリサイクル運動」等に取り組むことによって、持続可能な地球環境について考える機会につなげることができている。



## (8) 神戸市立大沢（おおぞう）中学校

### 『ユネスコスクールとして「持続可能な社会」の創り手の育成をめざす』

校区の環境には、SDGsの目標15「陸域生態系の保護・回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、生物多様性の損失を阻止等」に関わる課題を身近に感じることができる。その環境を活かし、総合的な学習の時間で里山保全活動や農作物の栽培・収穫の活動などを行い、また、地域の方々の支援の下、森林や竹林の間伐や手入れの体験を通して「持続可能な社会」について学習したり、地域に生息するニッポンバラタナゴ（コイ科）の保護活動に協力したりしている。これら環境学習を通して、地域を知り、地域に「愛着をもつ」意識や自然環境を大切にしようとする態度が育まれている。



## (9) 西宮市立山口（やまぐち）中学校

### 『モリアオガエルが教えてくれた、美しきわが町西宮市山口町のふるさと意識』

全学年で構成する保存会ボランティアにより、池の環境保全調査と卵塊採集を行い、卵塊から孵化したオタマジャクシを飼育・放池（放流）している。地域イベントでは、飼育小屋の紹介やボランティア活動の説明を行ったり、ポスターやパネルを展示し、その生態について紹介したりして、保護活動の必要性・重要性を啓発している。また、地域の一般企業とも連携しながら、地域に根差した活動もめざしている。モリアオガエルの保護活動を通して、自分たちの地域の在り方について考え、自然愛護の視点や自らの行動規範を意識するようになっていく。



## (10) 姫路市立家島（いえしま）中学校

### 『「ささゆり」を守る ～地域と小中学生との環境整備活動～』

旧家島町の町花としてあった「ささゆり」が生活様式の変化や環境の悪化により現在、絶滅が危惧されているため、生徒会を中心に地域の方々と自生地の整備を行っている。また、地域教材として、道徳科の授業で「ささゆり」を守ろうとする人々の地域愛や自然を大切にする心について学んでいる。児童生徒の自生地見学会や、地域の方々と土壌の整備、植え替え等を行うなど、学校と地域が一体となった取組を通して、家島の歴史と自然環境を継承し、地元愛が育まれている。



## (11) 兵庫県立有馬（ありま）高等学校

### 『持続可能な地域環境の創造』

環境学習に関する特徴的な学校設定科目を設置し、全学年で継続的に環境について学び活動する取組を行っている。『地域自然保護』の科目では県立有馬富士公園をフィールドとし、来園者や公園職員へのインタビュー、環境教育プログラムの体験を通して、公園の魅力や改善点などの調査を行い、その結果を白地図にまとめ公園内に展示するなど、実践的な活動に取り組んでいる。さらに、人と自然の博物館研究員から指導助言を受けながら、里地里山をテーマとした公園の魅力をどのように伝えれば、来園者の増加につながるのかを繰り返し検討し、来園者増加に向けたプログラム（夢プログラム）を立案し、実践を行っている。環境について3年間を通して系統的に学ぶことで自然保護の意識だけでなく、里山の管理への関心も高まっている。



## (12) 兵庫県立村岡（むらおか）高等学校

### 『若い力で地域の環境を知り守り継承しよう』

総合的な学習（探究）の時間では棚田保全活動、森の健康診断（土砂災害等を未然防止と提言）、集落調査（環境調査や環境改善の提言）、食文化（地域の食材を活用した新商品の開発）、紙すき（地域の自然を生かした産業の継承・作品開発）等に取り組んでいる。地域について学ぶ中で、自分たちのふるさとを守るために、今、行動すべきことに気付き、身近な自然環境の中にも人の手を加えないと守っていけない環境があることを知り、どのように地域の環境を伝承していけばいいのかを自ら考え計画し、地域と協働して実践していくことが身に付いている。



**(13) 兵庫県立洲本実業（すもとじつぎょう）高等学校**  
**『人と自然の豊かな関係をきづく社会実現に向けて』**

風力発電は、世界でも基幹電力として位置づける国が増える中、日本の風況に適した日本型風車を実現するために、課題研究で試作実験に取り組み、研究成果を学会や技術系コンテスト等で発表し、普及につなげている。風力や水力を用いた地域貢献活動を実施し、前項で明らかになった技術成果を用いて東北「絆」ボランティア活動「ひかりプロジェクト」として2年連続で参加しマスメディアにも取り上げられている。また、地域の小学生を対象とした出前授業も毎年実施している。これらの活動を通して、人との自然の豊かな「持続する環境の島」の実現に向けて、省エネや環境保全の大切さを啓発するなど、行動する態度が育まれている。



**【資源循環部門】**

**(1) 新温泉町立温泉（おんせん）小学校**  
**『人にも環境にもやさしい環境学習』**

循環可能な社会をめざし、①児童会が中心となり10年以上継続している取組である「プルタブ回収」②昨年度6年生児童の提案により取り組むことになり、企業を通じて発展途上国へ送った「服のカプロジェクト」③総合的な学習の時間に温泉を利用した発電について学習し、環境にやさしい発電についての理解を深めた「温泉発電学習」といった、3つの活動を中心に再生利用及び再生利用による廃棄物の削減に取り組んでいる。環境学習で連携している町の「おんせん天国室」が、ポスターやパンフレット等で資源循環等の重要性を訴えていることもあり、児童の環境に対する意識は高揚している。



## □ 令和2年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（3校）

### (1) 西脇市立日野（ひの）小学校

#### 『それいけ！日野っ子たんけんたい～杉原川にレッツゴー！～』

杉原川での自然体験活動では、①地域と杉原川のつながりへの気づき②杉原川の現状に気づき、環境を保護しようとする意欲の喚起③川の上流と中流における違い（川の様子、水生生物、水質）への気づき④環境保護の大切さを地域に発信するため、オープンスクールの開催やホームページ、ポスターの作成⑤農業における杉原川の恩恵の認識、といったことを目指して取り組んでいる。活動を通して、児童は地域の自然に生息する生物の生態を認識するとともに、貴重な生物を守るため、環境保護を進めようとする意識が高まっている。



### (2) 佐用町立上月（こうづき）小学校

#### 『ふるさと上月 大発見～もち大豆編～ ～川編～』

天然記念物であるオオサンショウウオやホタルの生態や、その他の水生生物について調べたり、地域の特産物である「もち大豆」の栽培体験、加工体験、さらにもち大豆を育てるために適した環境について調べたりする活動に取り組み、調査内容をまとめている。児童は、学習した内容を家族に話し、家族そろってホタルを見に行ったり、他の水生生物と一緒に見つけたりするなど、活動範囲を拡大させている。また、活動を通して、身の回りの豊かな自然環境のありがたさに気づくとともに、少しずつ環境が変わっていく中で、「ふるさと上月の自然」を自分たちの手で守り続けるといった、ふるさとを愛し、大切に作る心が育ってきている。



### (3) 兵庫県立あわじ特別支援学校

#### 『学校、地域、PTAが連携して芝生グラウンドを守り育てる取組』

グラウンドの芝生化は幼児児童生徒の怪我の防止、夏場の気温上昇の抑制、緑の景観による癒し効果を目的としている。維持管理が持続可能な取組となるようにPTAや地域と学校が芝生グラウンドを中心として教育、環境、社会について総合的に取り組むことで10年以上にわたって美しい芝生の景観を維持してきた。芝生グラウンドでの活動は、教育活動の一環となっており、芝生管理計画をもとに地域やPTA、高等部飼育栽培委員会が芝刈り、小・中学部美化委員会が清掃活動を分担して組織的に行っている。児童生徒は、地域の人と交流することの喜びを感じたり、学校の芝から堆肥を作り、自分たちの野菜作りに役立てるといった循環型農業を経験したりすることから、人やものの「つながり」を大切にする意識を高めている。

